



(1500円)

実 用 新 案 登 録 願

昭和 年 月 7日

特許庁長官殿

1.考案の名称

ソウチ ボンブ装置

2.考 案 者

姬路市千代面町840番地 住 所 三菱電機株式会社 姫路製作所內

氏名

夕田 ピア

生 (ほか2名)

3. 実用新案登録出願人 郵便番号 100

住所

東京都千代田区丸の内二丁目2番3号

称 (601)三菱電機株式会社

代表者 進 藤 貞 和

4.代 理 人

郵便番号 100

住 所

東京都千代田区丸の内二丁目2番3号

三菱電機株式会社内

氏 名(6699) 弁理士

5.添付書類の目録

(1) 明 細 書 1:2

1通

 $\begin{pmatrix} 2 \\ 3 \end{pmatrix}$ 面 委 1T: 状

1通

4) 出願審從請求書

13 12917.

- 考案の名称
 ポンプ装置
- 2. 実用新案登録請求の範囲

表面層部分にはガラス布静維を積層し、中心部分には硬度の低い繊維、例えば維布等を積層して樹脂結合剤にて一体成形したベーン材、上間ペーン材の端面に露出したガラス布徹維を切欠きで切除したベーンを備えたことを特勢とするポンプ装置。

3 考案の詳細な説明

との考案はポンプ装置、特に自動車用排気ガス浄化装置に申いられるペーンポンプの改良に 関するものである。

一般にこの種のポンプは、排気ガス浄化装置のシステム上の要求から、吐出空気中に油分を含まない無給油式が用いられるが、この目的を達成するには摩擦接触部分を極力少なくした構成にする必要がある。このために、この種のペーンポンプのペーンはシリンダと向心位置にあ

4

るアイドル軸上に、ペアリングを介してシリンダの内壁とは非接触な状態で支持され、かつアイドル軸方向への移動をロータに装着された側面プレートで阻止されながら、ロータ開口部の気密保持用ペーンシール上を摺動しつつ回転する機造となつている。

かかる構造のペーンポンプにおけるペーンには、耐熱性と耐摩料性が良好で、しかもペーン支持用ペアリングの負荷軽減のために低比重な材料が要求され、通常、ガラス布繊維を積層し、 樹脂結合剤で成形したペーンが用いられる。

しかし、上記した構造におけるペーンの指動は、ペーンとペーンシール側においては、カラス布轍維の積層方向と平行方向であるが、ペーンと側面プレート側では、カラス布轍維の積層方向と直角方向である。

したがつて、ペーンのとの面には、硬度の高いガラス布観維が露出しており、これが側面プレートと接触して繰り返し摺動した場合、ガラス布観維がワイヤブラシで摺動するがごとく、

側面プレートを摩耗させ、ポンプ寿命を著しく 低下させるという重大な欠点がある。

本考案は上記欠点を解消するために、表面層部分にはガラス布制維を積層し、中心部分には健康の低い、耐摩耗性の良好な機維、例えば綿布等を積層して樹脂等の結合剤で一体成形で、一な材を用い、側面プレートと摺動大きで、地面の表面層ガラス布制維部分は切欠き等を切除するとともに、ペーンポンプの寿命を向上させるととも的とするものである。

以下本考案を図面に示す実施例について説明する。

(1) は円筒形のハウジングで、吸入室(2) と吐出室(8) とを連通するシリンダ(1a) を有している。(4) はこのハウジング内に偏心して支承され、かつ開口部(4a) を有する円筒状のロータ、(6) は上記ハウジング(1) のエンドカバー、(6 は上記シリンダ(1a) と同心になるように、上記エンドカバー(5) に固定されたアイドル軸、(7) はこのア

TE

イドル軸に装着されたペアリング、(8)はこのペ アリンクに固着されたベーン取付部材、(9)はと のペーン取付部材に、リペット心により固定さ れたペーンで、表面層部分(9a) はガラス布機 維を積層し、中心部分(9b) は硬度が低く、相 手摺動面を摩耗させない、耐摩耗性の良好な轍 継、例えば綿布等を積層して構成され、端面部 分には切欠き(Ac) が設けてある。各々のペー ンは、アイドル軸 16 に対してそれぞれ独立して 回転でき、軸方向には移動自由となつている。 (11) 位 は上記ペーン (9) を正常な位置に保つための 側面プレートで、上記ロータ似に固定されてい れた一対のペーンシール、個はとのペーンシー ルを、上記ペーン(8: 化押圧するためのリーフス プリングで、各々のペーンシールstは、上記べ ーン(8)を狭持し、上記ロータ(4)内部の気密を保 持している。16:は上記ロータ(4)、シリンダ(1a)、 ペーン(9 によつて構成される作動室である。

の作動を説明すると、図示しない機関よりロータ(4)が駆動されると、ペーン(8)はロータ(4)からペーンシール(4)を介して、ロータ(4)と同方向に回転する。ロータ(4)はシリンダ(1a)に偏心して支承されているので、ロータ(4)が回転すると、ペーン(8)はペーンシール(4)と摺動してロータ(4)の開口部(4a)を径方向に出入りしながら、シリンダ(1a)内を回転し、吸入室(2)より空気を吸入し、作動室(4)を経て吐出室(3)に圧送して、ポンプ作用を行なり。

このとき、ペーン(8) は回転につれて、側面プート(II) (2)、およびペーンシール (3) との半径方向の関係位置が移動するため、側面プレート(II) (22、およびペーンシール (3) と常に指動することになる。

この指動運動において、ペーンシール [3] との 指動部分には、吐出および吸入空気の圧力差に よる押圧力と、リーフスブリング [4] による押圧 力が作用するため、耐摩耗性、耐熱性、耐圧縮 性の良好なガラス布繊維の表面層部分 (9a) を

配設し、側面プレート(II (12)との摺動部分には、 硬度が高く相手摺動面を摩耗させるガラス布敷 維部分を切欠き(9c) で切除して、硬度が低く 耐摩耗性の良好な糠維、例えば綿布等で構成された中心部分(9b) を配設してあるため、側面 プレート(II (12)の摩耗を防止できる。

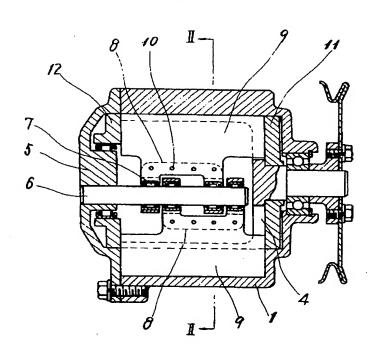
4 図面の簡単な説明

第1図は本考案のポンプ装置の実施例を示す 雑断面図、第2図は第1図のⅡ~Ⅱ断面図、第 8図は第2図『一『断面拡大図である。

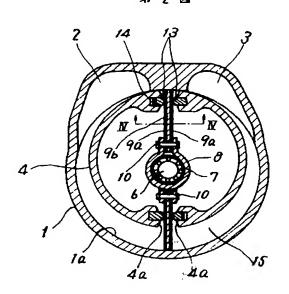
図において(1)はハウジング、(4)はロータ、(5) はエンドカバー、(6)はアイドル軸、(7)はペアリ ング、(8)はペーン、(11) (2)は側面プレート、(3)は ペーンシール、(4)はリーフスプリング、(6)は作 動室である。

代理人 茑野 信 一

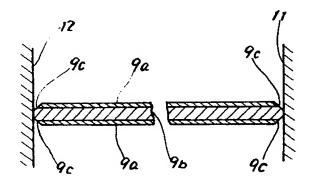
第 / 図



第 2 図



73910岁 代理人 葛野信一



73910 1/2

代理人 葛野信一

6. 前記以外の考案者

下記2名住所 ビメジシ チョ ダチョウ 亜路市千代田町 8 4 0 番地

ミッピケンキ ヒメジセイサクショナイ 三菱電機株式会社姫路製作所内

が け *外* オ 闘 道 **武** 雄 氏 名

> び サ 上 ダ

This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:
☐ BLACK BORDERS
I JMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
☐ FADED TEXT OR DRAWING
☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
SKEWED/SLANTED IMAGES
COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
GRAY SCALE DOCUMENTS
LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
OTHER:

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.